

広陵町教育委員会だより

令和5年度

1月号

広陵町教育委員会

1月11日発行

北葛城郡広陵町南郷583-1

TEL0745-55-1001

文責・編集

植村



正月(むつき)立つ 春の初めに かくしつ
相(あひ)し笑(え)みてば 時じけめやも

1月の万葉集 巻18-4137 大伴家持

(正月の春(はる)の初めに、このようにして集まって共に笑い合えば、いつもたのしいことでしょう。)

**甲辰(きのえたつ)は
成長・開運の年!**



年が改まって2週間が過ぎようとしています。

元日の16時過ぎに能登半島地震が発生し、お亡くなりになった人たちのご冥福をお祈りするとともに避難生活を強いられている人々に心からお見舞いを申し上げます。被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。また、私たちに何ができるのかと心痛めていますが、多方面にでき得る支援をいろいろと考えて実行に移せることができればと思います。

昨年は、5月に新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行し、社会はコロナ前に戻りつつあります。皆さまには、学校教育、子育て支援、生涯学習、スポーツ振興、文化財保存、図書館活動等の教育委員会における諸事業や様々な活動にご理解とご協力、そしてご支援を賜りましたことに心より厚くお礼申し上げます。今年も、昨年にも増してよろしくお祈りいたします。

令和6年(2024年)、十干十二支では「甲」は十干の最初、「命の始まり、ものごとの始まり」を意味します。たつぷりと養分を蓄えた、固い種子が芽吹くときとなり、ここから、甲辰は「これまでのコツコツと蓄えられた学びが芽を出し、活力に満ちた草木のようにすく々と伸びて、努力が花を咲かせる」というような意味になるそうです。また、辰は「振(ふるう)」を表していて、陽気が動き、それにより自然万物が振動し、草木も伸長し形も整い活力が旺盛になった状態を表しています。そのようなことから、2024年の甲辰は降竜ともいい、幸運を地上に届けてくれるといわれているそうです。

新年早々、能登半島を中心に大地震が起こり多くの尊い命が奪われ、未だに行方不明の方々もたくさんおられます。また、被災された方々の多くは未だに厳しい生活を余儀なくされていますが、様々な支援の輪を広げ、復旧・復興に向けた取組ができればと思います。

令和6年の甲辰は、新しいことを始めて成功する、いままで準備してきたことが形になるといった、縁起のよい年になると考えられていますので、そのことを信じてより良い年にしたいものです。



教育委員会関係団体の取組

『二十歳のつどい』を開催しました!

1月8日(月)の成人の日に、広陵中央公民館かぐや姫ホールで令和6年広陵町「二十歳のつどい」を開催しました。

民法改正により、令和4年4月1日から成年年齢が18歳に引き下げられましたが、広陵町ではこれまでと同じく、二十歳の皆さんを対象とした式典を「二十歳のつどい」という名称で開催しました。ほとんどの市町村でも同じ名称で行われているようです。今回も昨年に引き続いて、午前、午後の二部制での式でした。

午前に広陵中学校区、午後に真美ヶ丘中学校区の二十歳の皆さんを対象として、昨年同様、来賓の皆様も主催者側も極力出席者を控えた中での式典でした。今年、町内で成人になられたのは385人で、町外も含めて、広陵中学校区が194人中160人、真美ヶ丘中学校区が191人中154人に参加していただきました。

オープニングイベントとして広陵金明太鼓の皆さんが、二十歳の皆さんの門出を祝して、勇壮かつ軽快なリズムの「打てや囃(はや)さん」という曲の演奏をしていただき、「二十歳のつどい」に参加された皆さんにお祝いの気持ちを伝えていただきました。



式の進行は、午前は実行委員の中尾琉唯さんと中尾真菜さん、午後は銭塚智哉さんと上野ひな子さんが司会者として緊張しながらも、スムーズに進めてくれました。

山村町長は式辞の中で、作家の伊集院静さんが遺された、新成人向けの広告で綴られた言葉の一部を紹介され、「まずはケータイを置きなさい。インターネットを閉じなさい。テレビを消しなさい。世界を自分の目で見ることから始めなさい。この国以外の風の中に立ちなさい。そこには君がインターネットやテレビで見たものと全く違う世界がある。目で見たすべてをどンドン身体の中に入れなさい。」というもので、20歳の若い感性で見るものや感じるものを大切に、周りの人と違う考えを持つことを怖がらないでほしいという思いを伝えられました。

その後、教育長の私がお祝いの言葉を贈り、山村議長が来賓祝辞として熱い想いをメッセージにして贈られました。裏面へ



「二十歳の誓い」では、午前が廣原さんから、「高校生活は、大部分がコロナと共にありました。そのような中で不完全燃焼だったエネルギーをこれからの未来で花を咲かせ、一人ひとりが誰よりも輝かしいものとなるよう努力してまいります。」と心のこもった新たな誓いを話してくれました。



午後の谷さんからは、フィリップ・ノエル＝ベーカーが残した言葉、「未来についての敗北主義は犯罪である。」を引用され、「未来に対する希望と情熱を忘れないよう生きていきたい。挑戦をする気力がなくなった時、本当の敗北がやってくる。諦めず前を見続け、楽しい未来、明るい未来を築いていきたい。」という熱い想いを述べてくれました。

その後、小学校区ごとに分かれてのアルバムの記念撮影、そしてアトラクションとして、実行委員の皆さんが取材・編集した恩師によるビデオメッセージが流れ、思い出ある先生方のメッセージに一喜一憂していました。

午前・午後とも、式は厳かな中にも静かに落ち着いた雰囲気が進み、主催者として人生の節目を無事お祝いできたことが何よりもうれしいことでした。

第65回広陵町マラソン大会を開催!

12月17日(日)に、第65回広陵町マラソン大会を広陵中学校において開催しました。冷たい風が吹く寒い日となりましたが、たくさんの参加者が日々の練習の成果を精一杯発揮しようと集まっていただきました。

今回は、男女とも16歳以上Aの部として5km、16歳以上Bの部として3km、中学生の部3km、小学生5・6年生の部2km、小学生4年生以下の部2kmを種目に設定しての大会でした。



開会式では、スポーツ協会の増田会長、山村議長に、大会に臨む心構えと持っている力を精一杯発揮してほしいという熱いエールの力強いあいさつをしていただきました。私は選手への激励とともに1kmにつき3分半から4分ぐらいを目標にして走ってほしいとエールを送りました。この大会には、大和広陵高校の野球部員の皆さんがスタッフとして計時やゴールの順位確認などの業務に協力していただきました。



10時に16歳以上Aの部のスタートを皮切りに、各部ごとに競技は進み、最後は3月2日(土)に開催される第19回市町村対抗子ども駅伝の選手選考を兼ねた5・6年生男女のレースがスタートし、家族などの声援を励みに、持てる力を思う存分発揮して、それぞれがすばらしい走りを見せてくれました。



世代間交流事業を開催しました!

12月17日(日)に、社会教育委員会議主催の世代間交流事業「広陵町魅力再発見ウォーク」をはしお元気村と箸尾周辺の史跡等で開催しました。当日は、急に気温が下がりとても寒い日となりましたが、子どもさんから高齢者の方まで、スタッフを含んで世代を超えた約70名の皆さんに参加していただきました。

コロナ前までは、パークゴルフ大会として、この事業を実施していましたが、これまで以上に世代間の触れ合いを大切にしようとして社会教育委員の皆さんが何度も何度も協議を重ねて、新たなイベントとして創り上げていただきました。この日は、文化財ガイドの皆さんをはじめ、畿央大学の学生さん、奈良県青少年指導員の方々もスタッフとして参加いただきました。



旗作りの様子

今回は、北小校区を巡るスタンプラリー形式で、いろいろな年齢の方々が一つのチームになって箸尾の史跡等を巡りました。各ポイントでは、文化財の説明を聞いたり、けん玉やこま回し、輪投げなどの昔遊びをしたりするなどのミッションがありました。



教行寺でのミッション成功スタンプ

はじめに、元気村の多目的ホールで開会行事があり、社会教育委員会議の田島議長と私があいさつしたあと、青、黄、緑、赤、桃の5つのグループに分かれて、自分たちをアピールする旗作りを和気あいあいと協力して仕上げていました。その後、作り上げた旗を持って、箸尾御坊として有名な、教行寺へ。ここでは教行寺の解説とミッションとしてけん玉を成功させてスタンプを押してもらい、箸尾城跡へ。箸尾城は戦国時代の和歌山藩の中核を担った箸尾氏の居城でした。そのような解説を聞いたあと、板絵着色両界曼荼羅図や十一面観音立像で有名な大福寺横の大福寺公園へ。ここでは寺の由緒と収蔵されている文化財の解説と輪投げのミッションを。



輪投げのミッション

次に、弁財天のだんじり小屋の前では記念写真撮影のミッションを。続いて、戸閉まつりとして4か大字のだんじりが集う櫛玉比女命神社では、神社の歴史、戸閉まつりの解説とこま回しのミッションを。そして、最後に和菓子の菓子安では、焼きたてほやほやのみたらし団子をもらおうといったうれしいミッションを終えて、元気村に戻っていただきました。その後、元気村では、教行寺と櫛玉比女命神社の写真と「広陵町魅力再発見ウォーク」のテロップをレイアウトした記念となる缶バッジを一人に一個作っていただきました。この日はとても寒かったですが、世代を超えた触れ合いに心はとても温かく感じました。



缶バッジの作成